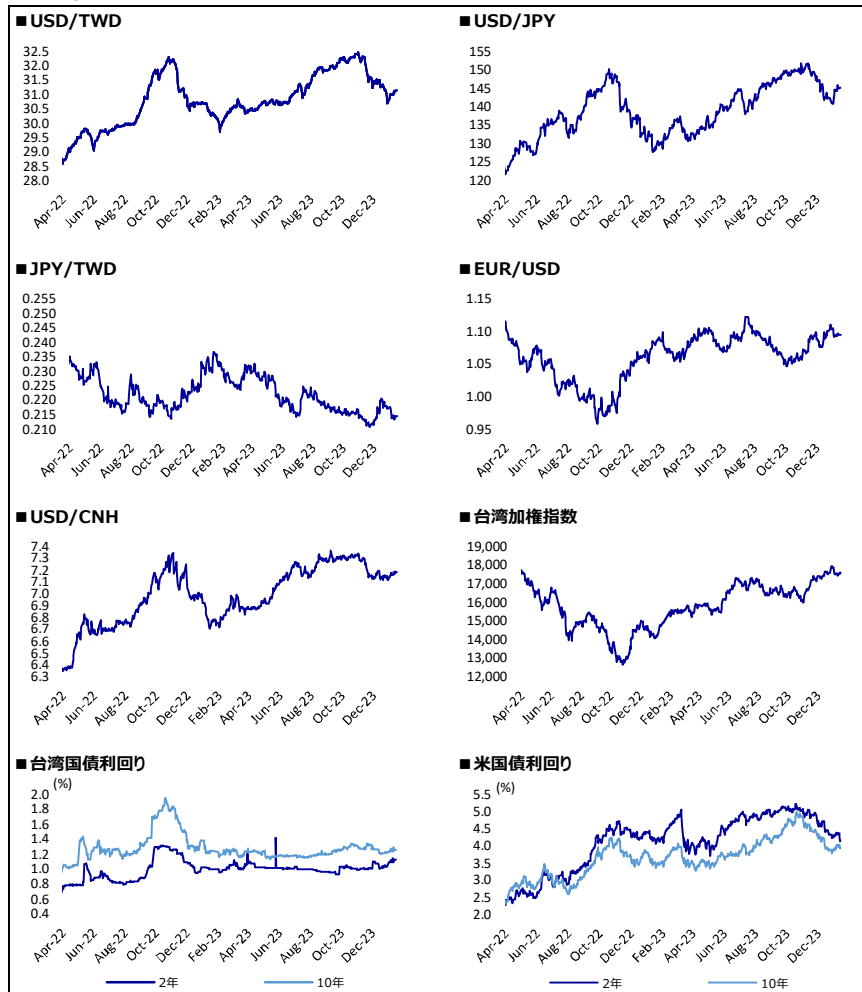


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初1/8は31.000でオープン後、外国人投資家による台湾株買いが見られたことで台湾ドル買いが優勢となり30.90台半ばまで下落し、上値重く推移した。1/9は、米金利の上昇が一服する中、ドル売りが優勢な展開となり一時30.915まで下落。しかしその後、外国人投資家による台湾株売りが見られたことで上昇に転じ、31.00台まで上昇した。その後中国が台湾南部上空で人工衛星を打ち上げたとの報道があったことで、引けにかけて底堅く推移した。1/10は米金利が上昇していたことを背景にドル買いが優勢な展開となり、31.10台まで上昇。午後に入ると、台湾から海外への配当金送金が見られたことで台湾ドル売りが加速し、一時31.150まで上昇した。1/11は、米12月CPIの発表を控え米金利が低下していた他、一部の輸出業者から外貨売りが見られていたことで、ドル売りが優勢な展開となり31.10を挟み上値重く推移した。1/12は、前日に発表された米12月CPIの結果が市場予想を上回る結果となっていたことを受けて、31.10台前半で底堅く推移し、最終的には前週比0.3%ドル高台湾ドル安の31.129で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は50.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初1/8は144.63でオープン後、独11月製造業受注が市場予想を下回る結果となった他、オイル価格が下落していたことを背景に米金利が低下する中、ドル売りが進み143円台後半まで下落。1/9は、日12月CPIが市場予想通り堅調な結果で発表されると、円買いが進み一時143.43まで下落した。その後米金利が上昇に転じるとドルが買い戻され、144円台半ばまで上昇した。1/10は、ニューヨーク連銀総裁のウィリアムズより「現状の景気抑制的な金融政策を維持する必要がある」との発言が聞かれたことで米金利上昇が続く中、ドル買いが継続し、145円後半まで上昇。1/11は、米12月CPIが市場予想を上回る結果となっていたことを受けて一時146.41まで上昇したが、米国地区連銀総裁のゴールズビーより「米12月CPIの結果は年内利下げ予想を変えるものではない」と聞かれたことを受けて、ドル売りに転じ145円台半ばまで下落した。1/12は米12月PPIが市場予想を下回る結果となったことでドル売りが優勢な展開となり、144円台半ばまで下落した。最終的には前週比0.2%ドル高円安の144.92で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.100-31.300
今週は上値の重い推移を見込む。台湾総統選という重要イベントを通過し不確実性が晴れたことは台湾ドル買い圧力となる一方、民進党が過半数を確保できなかったことで経済政策実行力の低下が意識されことは台湾ドル売り圧力となるであろう。長期的には米国の利下げが意識される中、ドル売り圧力がかなりやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：143.00-146.00
今週は上値の重い推移を見込む。米国インフレ指標の上振れを受けても米金利は低下を続けており、今週の経済指標が軟調な結果となる場合はドル売り圧力が強まりやすいであろう。

今週の予定

1/15 (MON)	米国休場
1/16 (TUE)	米1月NY連銀製造業景況感指数
1/17 (WED)	米12月輸入物価、米12月小売売上高、米12月鉱工業生産
1/18 (THU)	米12月住宅着工件数、米1月フィラデルフィア連銀景況感指数
1/19 (FRI)	日12月CPI、米1月ミシガン大学消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。